

<現場ICT技術の活用>

現場で実施しているICT技術を2つ紹介します。

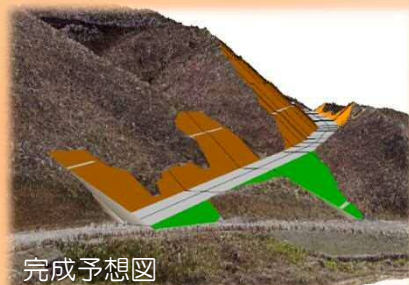
①施工計画の効率化 (3D施工計画ソフトの利用)



【準備】伐採が完了したあと、現場でUAVや3Dスキャナーを用いて現況地形を測量し、点群データとして3D画像を作成します。



【計画及び確認】専用ソフトを使用して道路の幅や勾配、法面の高さなどの条件を設定するだけで自動的に完成予想図が3D画像で短時間で作成できるため、誰でも簡単に計画ができます。



②掘削作業の効率化 (マシンコントロール油圧ショベルの利用)



GNSS (衛星測位システム) アンテナを搭載したバックホウを使用することで、オペレーターは画面上で掘削する断面を正確に知ることができます。測量業務の省力化、掘り過ぎ防止などの効果があります。機械周りで測量する作業員が不要となるため安全面でも大きな効果があります。

恵下埋立地(仮称)建設工事 工事だより

第05号
(2018年5月)



【お問い合わせ先】

施工者：大林・洋林・宮川建設工事JV(発行)
安佐南区沼田町大字阿戸166番地
TEL(082)-830-4007

発注者：広島市環境局施設部
恵下埋立地建設事務所
TEL(082)-923-6011

<工事進捗状況（平成29年11月～平成30年4月）>

①防災調整池工



防災調整池北側の壁部分の一部が完成し、洪水吐水路の施工を行っています。

②雨水集排水工



南側バイパス水路の吐口となる階段水路の施工を行いました。

③-1 法面保護工



土工事で発生した法面は、植生基材吹付により保護します。

④盛土工



大型転圧機械で十分に転圧しながら盛土を行っています。

<現況と今後の予定>

昨年12月に防災調整池北側の壁部分の一部が完成しました。現在は、雨水集排水工、切盛土工、法面保護工、地下水集排水工、長繊維補強土工、砂防堰堤工などの工事を進めています。今後も濁水の発生に注意しながら、引きつづき同様の作業を行い、工事を進めていきます。

第Ⅰ期造成区域



⑧燃え殻撤去



掘削用テントを移設しながら、燃え殻撤去作業を実施しています。

<燃え殻撤去工事の現況と今後の予定>

昨年10月から燃え殻の掘削・袋詰め・保管用テントへの運搬作業を開始し、現在概ね3/4程度の高濃度のダイオキシン類を含んだ燃え殻撤去が完了しました。引続き、テントを移設しながら撤去作業を行います。また、低濃度ダイオキシン類を含んだ燃え殻についても、撤去及び搬出作業を行う予定です。

⑤地下水集排水工



場内の上流から流れてくる水を排水する目的も兼ねた地下水集排水管の設置工事を行っています。

⑥長繊維補強土工



北溪流部の崩壊を防ぐため、法面に長繊維と砂を混ぜた材料を吹付し、地山を補強しています。

⑦砂防堰堤工



南溪流部からの土石流を防止するためコンクリート堰堤を施工しています。